

# こうみょう

第12号

この如来にょらいは光明こうみょうなり。光明こうみょうは智慧ちえなり。

智慧ちえはひかりのかたちなり。

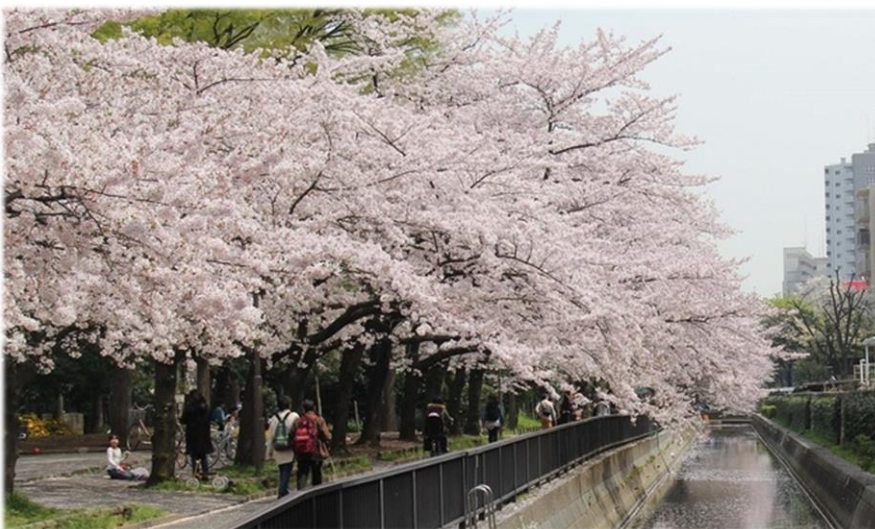
親鸞しんらん聖人しょうにん著作しよさく『一念多念文意いちねんたねんもんい』

いよいよ「平成」もあと一カ月を切りました。どのような時代だったとお感じでしょうか？ テレビでもいろいろな番組で、「平成」という時代を振り返っています。バブルの時代とか、少子高齢化の時代、日本が戦争を起こさなかった時代、など・・・。そのような中で、僕が注目したのは、「葬儀式」や「埋葬」ということが著しく変化した時代であったということです。

例えば「葬儀」。通夜を行わない「一日葬」、町会や近隣の方々へは知らせずに身内で済ます「家族葬」、病院から直接火葬場へという「直葬」。これらは、「死」ということが「公（おおよけ）」のものではなく個別なことだという考え方によるもので、地域コミュニティの崩壊とも言える危機的状況だと思っています。

そして、「埋葬」については、「散骨」や「樹木葬」、「個人墓」といったように、個人で始末をつけていくような埋葬が目立つようになりました。また、「墓じまい」という言い方で、子どもや孫に継承せずに、自分の代でお寺との縁も切り、後始末をつける方も増えてきていると聞いています。

そんなことから、今こそ「終活」というテーマで、お寺を地域コミュニティの場にしたいという思いが湧いてくるのです。



江東区 仙台堀川の桜

第12号

2019年4月1日発行

発行責任者

〒135-0013

東京都江東区千田9-7

真宗大谷派 光明寺

住職 小林尚樹

電話：03-3644-3043

メールアドレス：

koumyouji@sky.plala.or.jp

# 第1回「終活セミナー」を開催しました

## 2019年2月26日(火)

2月26日(火) 14時～16時で、光明寺では初めてとなる「終活セミナー」を開催いたしました。参加者は、講師を含め13名でしたが、活発に質問も出て、有意義で、尚且つ学び甲斐のあるセミナーになったと思います。

第一部は、「安心して生きるための、税金・保険、そして相続について」というテーマで、マニュアルフ生命保険(株)より、ファイナンシャルプランナーの藤山正行さんにお越しいただき、「相続を争族にしないために」というお話をお聞きしました。



ことですが、保険ということでも相続することもできるということを学びました。

第二部は、「安心して生きるための、お葬式、そして仏教について」というテーマで、私(住職)からお話いたしました。

私からは、お寺での葬儀をご提案いたしました。お寺で葬儀をすることは、利点がたくさんあるのです。ゆっくりとお別れの時間が持てますし、何より本堂でお勤めする葬儀は、祭壇が必要ありませんので、経済的な負担が少ないのです。

金額の多い少ないはあるにしても、相続の問題は必ず起こってきます。家族関係が良好であっても、いざという時には争うことになってしまうこともあります。遺言書を書いておくということはもちろん大事な

葬儀から納骨までの一連の流れは、慣れている人など、そうは居ません。一番慣れているのは、寺の住職です。ですから、事前に住職と十分ご相談のうえ、ご家族にとって大切な時間を過ごしたいものです。

### 住職による法話の「動画」について

昨年夏に開催された「エンディング産業展」で、真宗大谷派が出展した際に、僭越ながら私がセミナーの一つを担当いたしました。

テーマは、「法名」と「終活」—仏の教えに生きる、として、20分ほどお話いたしました。「終活」は、死にゆく始末ではなくて、死にゆくのちを、いま、どう生きて往くのか、ということが大事なことだと、思っています。そのためには、生きているうちに「法名」をいただき、仏の教えを人生のよりどころとするという態度決定をすることが、安心して生きることになるのだ、というお話です。

9分ほどの動画になっていていきますので、インターネットに繋げることが出来る方には、ぜひ、ご覧いただきたいと思えます。光明寺のホームページから真宗会館のリンクをクリックすると、「コラム」の中に左の動画がありますし、スマートフォンの方は、QRコードからご覧ください。



下記は、スマートフォン用のQRコードです。



## 仏事について……ことが知りたい!

### 法事の包みものについて

新しく家庭をもたれ、初めて親戚の法事に招かれたあなた。当日の持参品や服装などがわからず、戸惑われたことはありませんか? テレビなどで紹介されている一般的な心得では浄土真宗の教えに合わない場合が少なくありません。

そこで、法事(正式には年忌法要といいますが)の場合を例にあげ、心得や作法についてわかりやすく紹介していきたいと思えます。

まず包みものですが、市販されたものの中には「御仏前」あるいは「御霊前」と書かれた金封があり、どちらにしようか考え込んでしまったという経験は、これまでなかったでしょうか? ここで押さえておかなければならないのは、「御霊前」は使用しないということです。法事とは、亡き人を偲びつつ、仏の教えに私が出あう場であります。浄土真宗では神や霊を必要としない生き方を説く教えです。ですから、「御霊前」という表書きは使わないのです。

次に、「御仏前」は一般的によく使用されますが、むしろ「御香資」とするのがさわしい書き方です。といいますのも、浄土真宗において最も大切なお経である『仏説無量寿経』には、「香気普く薫ず」とか「華を散じ香を焼きて、これをもって回向して」とあり、私たちが薫香(かおり)をもって仏前に奉ずるのが本来の意味だからです。薫香は、清浄なる気持を起こさせるためのものでもありません(焼香の意味については、別の機会に譲ります)。



また、「資」は、たすけるとか供えるという意味があります。その薫香の「お香」の代物として現金をお供えするのですから、「御香資」と表書きするのが本来の意味からいってふさわしいわけです。

(東本願寺「真宗会館」発行

『仏事一口メモ』より転載)

### 「正信偈」のお勤めの動画について

日々のお勤めであります「正信偈」。正しくは「正信念仏偈」と言いますが、浄土真宗の宗祖親鸞聖人が書かれた偈(うた)です。

それも、たくさんある経典の中から『仏説無量寿経』を真実の経典と定め、本願念仏の教えについて、親鸞聖人の信仰を表現されています。ですから、私たちにとっては、とても大切な教えになります。

真宗門徒は、その教えを声に出して読むことで、教えを確かめていかれたのです。

しかし、上がり下がりなどの節が付いていて、なかなか難しいと思っておられる方も多くいらっしゃると思います。

光明寺のホームページ内の、「葬儀・仏事について」を開くと、左側に「真宗門徒の生活」というところがあります。そこをクリックすると左のようなものが出てきますので、そこをまたクリックしてみてください。



下記は、スマートフォン用のQRコードです。





## 花まつり法要

お釈迦さまは、4月8日にお生まれになったと、日本には伝わっています。

お釈迦さまのご誕生と親鸞聖人のご誕生、そして、新たな仏弟子の誕生をご縁に、法要をお勤めいたします。ぜひお参りください。

**日時**…4月7日(日) 13時より法要

法要の後に30分ほどの法話あり

**参加費**…無料

## 光明寺同朋の会(法話の会)

親鸞聖人が書かれた「正信偈」には、どのような教えが記されているのでしょうか。少しずつですが、学んでまいります。

**開催日**…4月27日・5月18日・6月29日

土曜日の14時～16時半まで

**参加費**…500円

初回の方はテキスト代600円

※皆さまのご参加をお待ちしております。

## 写教の会

教えの言葉を書き写す「写教」の会です。

**開催日**…4月17日・5月22日・6月19日

水曜日の14時～17時まで開けていますので、出入り自由です。

**参加費**…無料

親鸞聖人作の「正信偈」を書写しますので、筆ペン又は書道道具をご持参ください。

## 体幹らくらくヨガ

お寺で、リラックスした気持ちでヨガを体験してみませんか。無理なく体を動かしながら、自然と体の内側を鍛えることが出来ます。日常から離れて、自分の体と向き合い、心地よい時間を過ごしましょう。

※定員を設けておりますので、参加ご希望の方はお寺へご連絡ください。

**開催日**…毎月第2火曜日の10時半～11時半

毎月第4火曜日の19時～20時

※月に2回開催しています。

**参加費**…1,000円

## 永代経法要のご案内

「永代経法要」とは、亡くなっていかれた方々をご縁として、今を生きる私たちが教えに出遇う法要です。

親から子、そして孫へと大切な事柄を引き継ぎ、相続していくことが願われています。

※ご希望の方は、お寺へご連絡ください。

**日時**…2019年5月12日(日)

13時より法要・法要後法話

**法話**…光明寺住職

**お斎**…14時半ころ～15時半ころまで

**会費**…お志

## 仏具お磨きのご案内

「永代経法要」をお勤めするにあたり、本堂お内陣の仏具を磨きます。仏具を磨くことを通して、私自身の心を磨いているような気持ちになります。

※お手伝いいただける方は、お寺までご連絡ください。

**日時**…2019年5月5日(日)

15時半～17時ころ